

No. 995

チャンピオン

—中日ドラゴンズ—

2月1日から一斉にチャンピオンしたプロ野球12球団。

今年こそ是非優勝を、と与那嶺監督を先頭にハッスルする中日ドラゴンズは地元中日球場でスプリングキャンプをスタートしました。

3月下旬の陽気に恵まれ、選手たちは軽いトレーニングに汗びっしょり、ハイペースの仕上がりにコーチの方が押さえぎみです。待ちわびたバッティング練習では木俣、井上、島谷らがボンボンと景気よくさく越えの連続、左の即戦力と呼び声高い谷木が期待どおりシャープな振りで左右に打わけコーチ陣の称賛を浴びています。

また中日の黒い重戦車、テラ外野手もほとぼる熱気をみなぎらせ、なかなか元気。

9日からは浜松にキャンプ地を移して、実戦に即した練習に入る中日、今年はセ・リーグの台風の目、になりそうです。

現在 籠城770日

昭和45年、暮れもおしせまった12月25日、東京北区にある日本製紙(株)に働く530人の従業員は、会社解散全員解雇、をいい渡された。業績の悪化、公害対策費用の膨張、がその理由であった。昭和45年は、公害の企業責任を追求する世論が盛りあがった年でもあった。日本製紙労働組合の中川委員長は、公害対策というが会社は騒音防止に300万円をかけたただけだ。公害防止は企業経営者が行なうことであって、そのために会社を解散し従業員の首を切るのは本末転倒だ。絶対に許せない、と話す。

46年4月、工場の機械は全て停止した。従業員も去った。しかし100人が残った。そして2年が過ぎた。100人は、ここに再び我々の職場を取り戻そうと親会社の大昭和製紙、住友銀行に抗議と団交を重ね、一方で生活資金を稼ぐためアルバイトや行商に精を出してきた。朝、組合事務所で、行動予定を確認し、都内に散らばっていく。ある薬品卸問屋でアルバイトをする佐藤さんは、42年、夜勤中にロールに右腕を巻き込まれ切断する事故にあっていて。家族ともめましたが、こうなるとは、どこでも雇ってもらえないし、最後まで残ってたたかうことにしたんです。都内の組合を廻り、オルグとチーズやチョコレート之行商に励む金子さん。闘争中に子供を生んだ一人でもある。闘争のために子供を産めなかったとなれば負け、だと思って産んだという。

工場の片隅に闘争中に生まれた子供達の保育室がつけられた。幼い子供達がここで成長していく。大きな支えになっているという。親会社との話し合いも、具体的な進展はない。

その中で、この3月に工場敷地が立退けと会社は通告している。ねらいは2万坪にも及ぶ拡大工場敷地だと伝えられている。その土地代は90億円にもものぼるといふ。

しかしどんな事があっても、絶対に工場を守るという100人。

労働者の意地と根性を貫いて籠城770日が過ぎようとしている。